

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部・4年

参加プログラム: ANU2

派遣先大学: オーストラリア国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

オーストラリア国立大学は首都のキャンベラに位置し、私の訪れた7月は冬であった為寒かったが、日本の冬に比べると気温は高く、雪は殆ど降らないらしい。また空気は乾燥しており、湿潤な日本とは異なっていた。教育よりも研究を中心とする大学である為、大学院生が比較的多いらしく、また近隣も閑静である為、研究に没頭するには非常に良い環境であった。非常に大きなキャンパスであった。

参加した動機

私の興味や関心と、プログラムの内容が非常に近かった為。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

受け入れ先大学より、参加手続きに関して詳しい情報を提供して頂いた為、特に目立った問題はなかった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは1週間程度で取得出来た。観光ビザでプログラム期間中は十分に滞在可能な為、煩雑な申請手続きや下調べは要さなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIUに加入した。滞在期間と前後1日ずつ余分に加入していたが、特に目立った問題はなかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学期間が履修科目の試験と被っていた為、試験の代わりにレポートの提出にして頂いた。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

時間を見つけ、アメリカの友人と英語でSkypeしてもらい、会話練習をしていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

余分な本や服など、要らないものは出来るだけ減らすことが重要だと思う。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

全てが印象に残っているが、特にフィールドトリップは非常に勉強になった。

②学習・研究面でのアドバイス

私は英語が苦手なので、何をやるにもある程度時間がかかることは認め、粘り強く行い、ある程度開き直ることが重要だと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

オーストラリアアクセントに慣れるまで少し時間がかかった。忍耐強くあることが大事だと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮だった。受け入れ先大学による提供であった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬だったので寒かった。大学周辺にはいわゆる「遊ぶ」場所が少なく、公共交通機関はバスが中心と考えられる。ただ

キャンパス内は自転車の使用も多い。食事は肉や生野菜が中心であり、イギリスの影響かお茶の時間も午前と午後
に用意されていた。お金は基本的にクレジットカードを使い、現金のみしか使えない場合は、現金を使用した。しかし、寮
に居る限り、お金自体は殆ど必要ない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
睡眠を十分に取ることを気をつけた。治安は良いところであった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
1ヶ月の生活費と航空券と滞在費などの全ての出費を含め、30万円程度であった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
大学により提供されているものを利用した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末も授業があった。空き時間は同じプログラムの仲間とお酒を飲んだり、食事にいたりした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学側のサポートを必要とする機会を見ることがなかったので、分かりませんが、生徒同士でのサポートをし合う機会
は多くありました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

設備自体は極めて充実しておりましたが、無線の環境はあまり良くありませんでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私の参加したテーマは、日本的にも世界的にも人気のない学問分野であり、どのような過程を経て生徒が集まったの
か、興味深く勉強になった。また、今回このようなプログラムへの参加を通じ、特にオーストラリアの現状を学ぶこと
で、日本の状況との比較することが出来、今後このような学問に従事したい私にとっての課題など、を考える貴重な場
になったと思う。

②参加後の予定

今後も今回のプログラムで学んだことを自身の活動や研究に活かしたいと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

非常に刺激的なプログラム内容です。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。